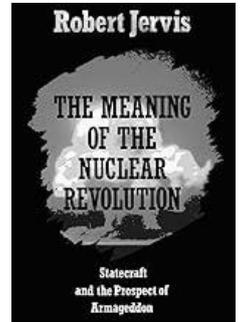
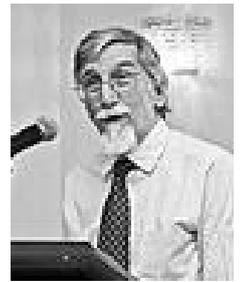


核兵器が変えた 軍事戦略と国際政治



核革命の理論と国家政策

ISBN978-4-8295-0876-3

ロバート・ジャーヴィス著
野口和彦・奥山真司・高橋秀行・八木直人訳

A5判 356頁
本体 3,600円

「核兵器が現状維持を保つ効果あり」との仮説を提示し、
「核兵器が軍事戦略と国際関係を革命的に変えた」という
画期的な理論を展開した話題の書

核政治や核戦略研究の現代古典として「グロマイヤー賞」を受賞した
*The Meaning of the Nuclear Revolution: Statecraft and the Prospect of Armageddon*の全訳版。

著者のロバート・ジャーヴィス（1940 - 2021、コロンビア大学教授、アメリカ政治学会会長）は、
防衛的リアリストとして「安全保障のジレンマ」、すなわち、ある国家の安全保障の向上は、他の国家の安全保障を
低下させ、対抗措置を招く結果として打ち消されてしまうという基礎モデルを構築しただけでなく、認知心理学をい
ち早く国際関係分析に導入した政治心理学研究の第一人者。

◎核兵器の影響力により

- 「核保有国間の平和が保たれる」
- 「互いの関係を戦争の瀬戸際にまで悪化させようとはしない」
- 「核武装国間では危機でさえ起こりにくくなる」
- 「現状打破行動を防ぐ効果がある」
- 「核軍拡競争は、国家が確証破壊を可能にする第二撃能力を確立
した段階で終わり、それ以上の核兵器の保有はムダになる」

ジャーヴィスの核革命理論は、多くの研究者により妥当性が検証される一方、「核兵器が現状維持を保つ効果あり」との仮説には反論が寄せられるなど、話題性に富んでいる。

- 第1章 ◆核革命の理論
- 第2章 ◆戦略理論——何が新しく、何が正しいのか
- 第3章 ◆相互確証破壊は事実であり政策ではない
——この議論を正しく理解するために
- 第4章 ◆道義観と国際戦略
- 第5章 ◆危機の安定性についての心理学的側面
- 第6章 ◆核政治の象徴的な性質
- 第7章 ◆結論 勝利と敗北
——核時代におけるクラウゼヴィッツ

《著者》
ロバート・ジャーヴィス (Robert Jervis) (1940 - 2021)
コロンビア大学アドレー・E. スティーヴンソン教授
(原書の刊行当時)

《訳者》
野口和彦 (群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部教授)
奥山真司 (多摩大学大学院客員教授)
高橋秀行 (海上自衛隊幹部学校戦略研究室 (2等海佐))
八木直人 (海上自衛隊幹部学校講師 (非常勤))

4月下旬 新刊搬入予定です 配本部数申込締切は 4月8日(月) です
FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版
〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
核兵器が変えた軍事戦略と国際政治		
4月新刊 本体 3,600円	部	